

平成30年度 一相生市立図書館

# 図書館だより (9月号)



〒678-0053

相生市那波南本町11番1号

電話 0791-23-5151

FAX 0791-22-7164

電子メール info@aioi-city-lib.com

<図書館カレンダー> ■ は、休館日。祝日も開館しています。開館時間 10:00~19:00  
(9月) (10月)

日	月	火	水	木	金	土
*	*	*	*	*	*	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	*	*	*	*	*	*

日	月	火	水	木	金	土
*	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	*	*	*

## 【図書館臨時休館のお知らせ】

9月3日(月)~9月21日(金)は、エレベーターのリニューアル工事のため、臨時休館します。また、併せて年に一度の図書や雑誌の整理を行います。この期間中、図書館の利用はできません。(生徒学習室、貸出期間の延長、予約を含む)本などを返す時は、図書館の玄関右側にある「図書返却口」に入れてください。

## <9月の行事案内> ♪♪♪みんなおいでよ『子ども劇場』♪♪♪

日時	行事内容	場所
2日(日) 11:00~	人形劇 『三びきのこぶた』	3階 しちょうかく室
29日(土) 11:00~	おはなし会 えほん 『やまなしもぎ』ほか おはなし 『さるとかに』ほか	3階 えほんのへや(大人も入れます。) おはなしのへや (4才以上対象。大人は入れません。) ☆遅れた人は参加できません。

## <2階 思索の広場コーナー>

- 特集:『滄海よ眠れ』—ミッドウェー海戦の生と死— 1~6巻 澤地久枝/著  
希望があれば貸出しますので、1階カウンターで貸出し手続きをお願いします。

## <読書会だより> 9月の読書会のご案内

★日時…9月8日(土) 10:30~12:00

★場所…相生市総合福祉会館 302 研修室

★課題図書…『八十日間世界一周』J・ヴェルヌ(著)/田辺貞之助(訳)/東京創元社





# おすすめ本(児童書)



<対象\* 4才~小学校低学年> 『だいくとおにろく』 [P]

松居 直 再話 / 赤羽 末吉 画 / 福音館書店



むかしあるところに、とてもながれのはやい大きな川があり、何度橋をかけても流されてしまっていた。こまった村の人たちは、名高い大工に橋をかけてくれるよう頼み、大工もこころよく返事をした。そして大工がどうやって橋をかけようか川のほとりで思案していると、水の中から大きなおにがでてきて、大工のかわりに橋をかけてやろう、その代わり大工のめだまをよこすように言った。大工は「どうでもよい」といいかげんな返事をしてうちへ帰ったが、次の日川へ行くと、橋が半分かかっていた。またその次の日川へ行くと、立派な橋がかかっており、あきれて見ていたところ、おにが出てきてめだまをよこせと行った。あわてた大工がおにに待つてくれるよう頼むと、おには、自分の名前を当てたらゆるしてやろうと言った。そして大工があてもなく山の中をさまよっていると・・・。

岩手県の昔話。名前をあてられると力を失うという日本の昔話にはあまりないパターンのお話です。グリム童話の「ルンペルシュティルツヘン」もあわせて読んでみてください。



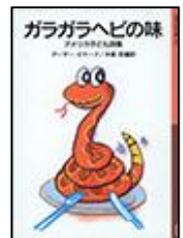
<対象\* 5才~小学校中学年>

『ガラガラヘビの味』—アメリカ子ども詩集— [93]

アーサー・ピナード 木坂 涼 編訳 / 岩波書店

「あるグルメ通の男が、ぼくに やたらとガラガラヘビの肉をすすめた。  
「まあ、そんなイヤな顔をしなさんな! ちょっとトライしてごらんさいよ。  
いつも食べてるチキンとすごく似てるってわかるから。」と。  
彼のいうとおりだった。 だから今、・・・」

—オグデン・ナッシュ 「ガラガラヘビの味」—より



アメリカの先住民族に伝わる古い詩から現代の詩まで、いろいろなテイストのアメリカの詩が盛りだくさん。詩に対して、堅苦しくて、気取ったイメージを持っている人にこそ読んでほしい楽しい作品集。親子でお互いに好きな詩を読みあうのも素敵です。



<対象\* 小学校高学年~> 『闘牛の影』 [93-ポ]

マヤ・ヴォイチェホフスカ 作 / 渡辺 茂男 訳 / 岩波書店



伝説的な闘牛士を父に持つ少年マノロ。父はマノロが3歳のとき、闘牛により亡くなっていた。大きくなるにつれて父に似てくるマノロを見た人々は、父と同じような偉大な闘牛士になることを期待する。しかしマノロは、自分が父のように勇気がなく、闘牛士に向いていないのではないかと思い、また勇気がないことを人に指摘されることを極端におそれていた。それでも周囲の期待に応えられるように闘牛の稽古に精を出し、ある程度のかたちが身についてきた。そんな折、友人の兄ファンが情熱を持って闘牛士になることを望んでいることを知ったが、同時にファンには闘牛士になれるチャンスがほとんどないことも知り・・・。

思春期を迎えた子どもが、葛藤を繰り返しながら自分の道を見つけてゆく物語。舞台はスペインで、聞きなれない闘牛用語が数多く出てきますが、細かい用語の解説を読まなくてもストーリーに引き寄せられ読みすすめることができます。



# おすすめ本(一般書)



『一緒にいると楽しい人、疲れる人』 有川 真由美・著/PHP 研究所/159  
著者が今まで出会ってきた「一緒にいると楽しい人」の、話し方や行動の習慣、考え方のエッセンスを紹介。「一緒にいると疲れる人」にならないためのポイント、「疲れる人」への対処法も教えてくれる。

『とっておきのフィンランド』 kukkameri・著/ダイヤモンド・ビッグ社/293.8  
新しいムーミン美術館、田舎の夏のコテージ体験、憧れのガラスイグルー滞在…。まだ知らない魅力に出会える、心ときめくフィンランドの最旬スポットを紹介する。



『看護師も涙した老人ホームの素敵な話』 小島 すがも・著/東邦出版/369  
「母と息子、縁起物の恵方巻」「“お迎え”に土産を渡して追い返す」「それぞれの人生、それぞれの最期」…。看護師が老人ホームで体験した、心から「人」を好きになれる感動の実話。

『小さいからこそ“こなれる”ルール -147cm STYLING RULE-』  
岡野 香里・著/幻冬舎/589

Tシャツは袖を折る、ニットはゆったり or ぴったり、キッズサイズを活用する…。背が低い人でも、着たい服を諦めないでおしゃれを楽しむための81のルールを伝授する。買い物&コーディネート極意も紹介。

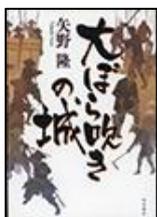


『ウドウロク』 有働 由美子・著/新潮社/699

自他ともに認めるクロい部分も、ちょっとだけあるシロい部分も、包み隠さず書いてみました。元NHKアナウンサー、有働由美子が、「好みの男性」「独居中年の高熱」などについて綴る。

『狩猟家族』 篠原 悠希・著/光文社/Fーシ

ニュージーランドでトレッキング中に道に迷った遼平は、狩猟生活を送る父娘と出会う。彼らの生活は、遼平にとって想像もつかないほど自由で、過酷で、逞しいものだった。



『大ぼら吹き城』 矢野 隆・著/KADOKAWA/Fーヤ

城下町で初めて見た美しい女性に求婚し、戦場では命を惜しみ逃げ回る。そして信長からは、禿げ鼠と誹られる男、藤吉郎。嫁も出世も、城すらも法螺で搦んだ男は、なぜ強者や信長をも惹きつけたのか。

